



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5511 (代表)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第四十八回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

いつの時代までも残したい

邑楽町の昔ばなし



菖蒲酒はショウブの根を細かく刻んで浸した酒です。邪気を払うために端午の節句(5月5日)に飲んだといわれます(写真はイメージ)

五月の節句の菖蒲酒

ある晩のこと、娘が機織りをしていると若い男が夜遊びにきて、狭間(窓)の外から声をかけました。男は絹耕を着た美男子でした。織娘は、てっきり中野辺りの、はた屋さんの若大将だろうと安心してその男と会いました。それから若者は毎晩のように通つてきました。



娘の母親は、はた目に娘の相手はいい男だが、どこの者か知っておきたいと思いました。そこで、男の帯の結び目に絹針を刺し、夜目にも見えるように目印にして、帰っていく後ろ姿をこっそりつけていきました。

やがて、大きな沼のほとりに着くと男は急に蛇に化身し、青い体は沼の中ですうっと消えていきました。びっくりした娘の母親は、その場に立ちすくんでしまいました。そして、しばらく動けませんでした。すると、先ほど蛇が消えていった方向から話し声が聞こえてきました



た。どうやら、さつきの蛇の親子の会話らしいので、じっと耳をすまして聞きつけていました。

すると蛇の母親が「お前、この頃毎晩のように遊びに行くようだが、注意しないといけないよ。お前の体には針が刺さっているのではないか。命取りになるぞ」とせがれに言いました。

するとせがれが「おふくろ、心配ねえよ。たとえ俺が死んでも、人間の娘に卵をたくさん産みつけてきたから悔いはないよ」と自信たっぷりに答えました。

すると母親が「そんなことは安心できない。人間は五月の節句に菖蒲酒を飲むことになつていて、そのとき娘が菖蒲酒を一杯飲めば、人間の女の腹の中の卵なんか、みんなおりてしまうんだぞ」

娘の母親はこの話を聞いて、五月の節句に娘に菖蒲酒を飲ませたといいます。おかげで、娘は何事もなく、近所の男と結婚し、幸福に過ごしたそうです。五月の節句に菖蒲湯に入ったり、菖蒲酒を飲むときは、「体の中の悪魔を追い出す」効き目があるといわれています。



【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



桜並木
(中央公園)



Photo 松村光明(記録ボランティア)



ひとりごと From editors

▶町ホームページやお知らせメールを担当している情報政策係の〇澤です。ホームページには暮らしに必要な情報が載っています。さらに、この広報おうらが読めることをご存知ですか？常に情報を更新し、世界中のどこからでも邑楽町を身近に感じてもらえるように努めます。
▶友人の結婚式で「妻が今までに書いてくれた手紙の全てを大事にしまっている」と自慢した友人。情報端末が普及し、メールやLINEのやり取りをする人が増えています。しかし、紙の手触り、匂い、重さ、そこから伝わる温かみ……広報おうらも紙を媒体にする邑楽町からの手紙です(ふるさと通信も、ぜひご利用ください！)。▶私も今度、勇気を出して妻に手紙を書こうと思います。ちなみに下の名前は友樹です。(唐澤)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。